

(様式1)

平成23年度 学校経営計画書及び学校評価計画書

石川県立小松工業高等学校	
校長	宇都宮 博

1 教育目標

- ① 工業の専門高校として、地域産業の発展に貢献できる有為な産業人を育成する。
- ② 誠実を尊び、規律を守り、豊かな心、たくましい体力と実践力を持った人材を育成する。
- ③ 自ら専門技術の練磨を図り、科学的な探求心を持ち、創意工夫する人材を育成する。

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 時代のニーズに応えた6学科（機械システム、機械テクニカル、電気、電子情報、建築土木、マテリアル）を有し、実践的な工業技術や先端技術を身につけた地域産業をささえるスペシャリストを育成している。
- ② ものづくり人材の育成を主眼とした、「地元産業の発展に貢献できる意欲的な生徒の育成」を通して、地域から信頼されている工業の専門高校であり続けている。
- ③ 個に応じた進路実現を念頭に置き、きめ細かな学習指導や生徒指導を行うとともに、多彩な学校行事や部活動、生徒会活動等を通して、自律性に富み、豊かな心、たくましい体力を身につけた生徒の育成を目指している。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 学校での授業・実習を基本にしなが、家庭学習や朝学習を習慣づけることにより、基礎学力の定着を図る。
- ② 基本的な生活習慣を確立し、心身ともに充実した高校生活を送ることを目指す。
- ③ 専門教科・領域への興味・関心を高めるとともに、職場体験等を通して勤労観・職業観の育成を図る。
- ④ 学校行事、部活動、生徒会行事等の集団活動を通して、互いに協力することの大切さや、自己の役割と責任について自覚し、コミュニケーション能力の育成に努める。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 教職員の意識改革を図り、学校経営計画書に基づき主任を中心とした教職員が一体となった機動的な学校組織運営に努める。
- ② 授業公開や校内研修を充実させ、生徒の集中力が持続する授業を展開し、生徒の反応を測りながら、授業の創意工夫・改善に努める。
- ③ 保護者、地元企業、地域等に対して、様々な機会本校の教育活動を情報発信することで開かれた学校づくりに努め、地域への貢献を図る。

3 今年度の重点目標

- ① ものづくりの実践的な技術の習得や資格取得に積極的に取り組み、個々の生徒の適性に合わせた進路実現を図る。
- ② 規範意識の醸成やコミュニケーション能力の向上に取り組み、工業人としての基本的な生活習慣の確立を図る。
- ③ 「確かな学力」を身につけさせるとともに部活動の活性化を図り、学習と部活動の両立を目指す。
- ④ 「わかる授業」を目指して教師が常に授業力向上に努めるとともに、地域社会との連携に積極的に取り組む。

平成23年度 学校評価計画書

石川県立小松工業高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	(評価方法)
1 ものづくりの実践的な技術の習得や資格取得に積極的に取り組み、個々の生徒の適性に応じた進路実現を図る。	① 個々の生徒の適性に 応じた進路実現を図る。 また、適切な進路情報 を積極的に提供していく。	進路指導部 学年会	昨年度の高校生求人 がやや改善されたもの の、東日本大震災や世 界情勢の不安感から今 年度も引き続き不安定 な雇用情勢が予想され る。工業高校として就 職を中心とした進路実 現が求められている。	<成果指標> 進路達成率をみる。	生徒の就職・進学 の進路実現について A 100%の達成率であ った。 B 98%以上の達成率 であった。 C 96%以上の達成率 であった。 D 96%未満であっ た。	A段階を目指す。B 以下の場合は適切な 分析の上、次年度に 生かす。	2月末での実績
				<努力指標> 進路指導だより等の 情報提供を実施する。	進路情報が生徒の 進路選択に A 参考になり、十分 役に立っている。 B だいたい役に立っ ている。 C あまり役に立って いない。 D 役に立っていない。	A+Bが70%以下の 場合、検討を要す る。 前期、後期にアン ケート実施。	生徒アンケート
	② 進路実現の可能性を 広げる資格取得に積 極的に取り組むとと もに、ものづくりの 技術向上に成果を 上げる。	進路指導部 各学科	目標とする資格取得 に向けて生徒の意欲を 引き出す必要がある。 また、22年度ものづ くりコンテストでは 旋盤部門で全国第3 位となるも、様々な 部門で成果を上げたい ところである。	<努力目標> 資格取得に向け生徒 の意識を高める。	生徒が目標とした 資格取得について A ほとんど取れて十分 満足している。 B かなり取れてだいた い満足している。 C 少ししかとれず、あ まり満足していない。 D 不満足である。	A+Bが60%以下の 場合、検討を要す る。 後期にアンケート 実施。	生徒アンケート
				<成果指標> ものづくり大会にお いての上位進出を目 指す。	今年度のものづく り大会において A 全国大会で上位入 賞することができた。 B 全国大会への出場 ができた。 C 北信越大会に出場 できた。 D 県大会出場にとど まった。	B以上を目指す。	後期に実績報告
2 規範意識の醸成やコミュニケーション能力の向上に 取り組み、工業人としての基本的な生活習慣の確立 を図る。	② 学校教育の基本であ り、進路実現につな がる生活面の改善に 取り組む。	生徒指導部 全職員	昨年度問題行動によ る指導が多くなり、 生活面での課題が散 見された。全職員が 一丸となって取り組 む必要がある。	<努力指標> 基本的な生活習慣の 確立を推進する。	教職員が生活指導 (服装容儀、あいさ つ)について A 積極的に取り組ん でいる。 B だいたい積極的 である。 C あまり積極的 ではない。 D 消極的である。	A+Bが80%以下 の場合、検討を要 する。 前期、後期にアン ケート実施。	教職員アンケート (自己評価)
				<成果指標> 遅刻の状況を把握 する。	昨年度と比較し、 遅刻件数が A 30%以上減少 した。 B 20%以上減少 した。 C 10%以上減少 した。 D 10%未満であ った。	C以下の場合は、 改善策を検討す る。 前期、後期に教 務部で集計	実績を見る
				<満足度指標> 生徒自らの生活面 についての充実度 を見る。	生徒自身が服装・ 頭髪について A 本校生徒は頭髪・ 服装がきちんとして いる。 B 本校生徒は頭髪・ 服装がだいたい整っ ている。 C 本校生徒は服装・ 頭髪がやや乱れて いる。 D 本校生徒は服装・ 頭髪が乱れている。	A+Bが80%以下 の場合、検討を要 する。 前期、後期にアン ケート実施。	生徒アンケート
				<成果指標> 生徒指導部の特別 指導の推移を見る。	昨年度と比較し、 特別指導件数が A 30%以上減少 した。 B 20%以上減少 した。 C 10%以上減少 した。 D 10%未満であ った。	C以下の場合は、 改善策を検討す る。 前期、後期に生 徒指導部で集計	実績を見る

3	「確かな学力」を身につけさせるとともに、部活動の活性化を図り、学習と部活動の両立を目指す。	①	進路実現を図るために、基礎学力の充実・定着と学習時間の確保に取り組む。	教務部 各学年 各教科 部活動	授業以外の学習時間が不足している現状がある。また、授業ではわかりやすい授業によって学習意欲を引き出すことが求められており、さらに部活動との両立も大切である。	<p><努力目標> 授業以外での補習や家庭学習時間を確保する。</p> <p><努力指標> 学習と部活動の両立についての意識が大切である。</p>	<p>生徒が授業以外での自主的な（補習含む）学習時間を目標1時間確保することについて</p> <p>A ほとんど達成できた。 B 週に2～3回達成できた。 C 週に1回程度達成できた。 D ほとんど達成できなかった。</p>	A+Bが60%以下の場合、改善策を検討する。 前期、後期にアンケート実施	生徒アンケート
		②	学校の特徴として、部活動の活性化が求められており、生徒の積極的参加や県内外での成果を上げる必要がある。	生徒会 部活動 学年会	年度当初は部活動の参加率も高いが後半にはリタイアする生徒が増えている。また、総体総合順位は昨年度5位であったが、優勝旗が飾られていない状況がある。	<p><努力指標> 部活動加入率の状況を見る。</p>	<p>後期の部活動加入率について</p> <p>A 90%以上であった。 B 80%以上であった。 C 70%以上であった。 D 70%未満であった。</p>	C以下の場合、次年度の改善策を検討する。	後期の実績
						<p><満足度指標> 生徒が達成感を持って活動する必要がある。</p>	<p>生徒の部活動に対する充実感について</p> <p>A 十分に満足している。 B ほとんど満足している。 C あまり満足していない。 D 満足していない。</p>	A+Bが70%以下の場合、検討を要する。 前期、後期にアンケート実施。	生徒アンケート
						<p><成果指標> 県内での上位進出を目指す。</p>	<p>県総体での団体、個人ベスト4以上の成果が</p> <p>A 10種目以上あった B 7種目以上あった。 C 4種目以上あった。 D 4種目未満であった。</p>	B段階を達成できない場合、後期の新人大会に向けて強化を図る。	総体後の実績
4	「わかる授業」を目指して教師が常に授業力向上に努めるとともに地域社会との連携に積極的に取り組む。	①	生徒の基礎学力の確立と授業規律の向上を目指して、朝学習に取り組む。また、教師相互の授業参観等を通して授業力向上を目指す。	教務部 各教科	<p>学習に対する意欲の向上が求められており、教師の創意工夫と自らの授業力向上が必要となっている。</p>	<p><努力指標> 相互の授業参観を積極的に実施する。</p>	<p>教師相互の授業参観について</p> <p>A 年間5回以上実施できた。 B 年間3回以上実施できた。 C 年間1回以上の実施であった。 D 実施できなかった。</p>	A+Bが70%以下の場合、検討を要する。 前期、後期にアンケート実施。	教職員アンケート (自己評価)
					<p><満足度指標> 生徒が教師の授業についてわかりやすいと感じているか。</p>	<p>生徒が「わかりやすい授業」について</p> <p>A 非常に分かりやすいと感じている。 B だいたい分かりやすいと感じている。 C あまり分かり易くない。 D ほとんど分からない。</p>	A+Bが80%以下の場合、検討を要する。 生徒の授業アンケート実施。	生徒授業アンケート	
					<p><努力指標> 朝学習をより効果的なものにする</p>	<p>朝学習の取り組みが落ち着いた学習への</p> <p>A 良い取り組みとなっている。 B まずまず良い取り組みとなっている。 C あまり効果的な取り組みとなっていない。 D 良い取り組みとなっていない。</p>	A+Bが70%以下の場合、検討を要する。 前期、後期にアンケート実施。	教職員アンケート (自己評価)	
		②	保護者や地元の企業との連携を深め、保護者が学校を理解するとともに、地域社会が求める人材の育成に積極的に取り組む。	総務部 進路指導部	本校の実情を理解し、保護者とともに健全な生徒の育成に努めるとともに、インターシップを通して工業人の育成に努める必要がある。	<p><成果指標> PTA総会への積極的な参加を図る。</p>	<p>PTA総会への参加が</p> <p>A 40%以上である。 B 30%以上である。 C 20%以上である。 D 20%未満である。</p>	B段階以下の場合、支部懇談会やクラス懇談会における出席率の増加を目指す。	5月末の総会実績
③				<p><満足度指標> 保護者が子どもの入学に満足している。</p>	<p>保護者が本校に子どもを入学させて</p> <p>A 非常に満足である。 B ほぼ満足している。 C あまり満足していない。 D 満足していない。</p>	A+Bが90%以下の場合、検討を要する。 前期・後期にアンケート実施。	保護者アンケート		
				<p><満足度指標> インターシップでの生徒の意欲を企業側として判定する。</p>	<p>インターシップにおいて、本校生徒は</p> <p>A 非常に意欲的であった。 B まずまず意欲的であった。 C あまり意欲的でなかった。 D 意欲が感じられなかった。</p>	A+Bが90%以下の場合、検討を要する。 インターシップ後にアンケート実施。	インターシップ終了後に集計		